



414
A1139



日耳曼語ニシテ
不動産ト云フ義

大正十一年
大隈侯爵邸藏

同ノ推理ヲ持テ并平入ト同一ノ目的(即チ収入ヲ得ニガ
為ニ國家ノ所有スル所ノ都テノ不動産ヲ稱ス然レドモ常ニ國家ノ
生産スル所有地ニ限ルモノトセリ

「ドメイン」ノ歴史ハ理財上及政治上ニ於テ最緊要ナルモノナリ
抑モ其最初ハ賦^{不動産}産共有ノ時ヲ組織シ其次ハ重ニ國家又ハ社會^{例ハ宗教}
ニ於テ所有スルノ時トナリ而シテ終ニ各人自由ニ之ヲ所有スルノ時ト
ナルニ至レリ○獨キハ國家土地ノ最多キ部分ヲ所有シ其所有外ノ土地
ヲ多ク注意セザリシ程ナリシガ漸々ニ國家ノ行為ハ間接トナリ而シテ
近代ニ於テハ國家ノ屬地次第ニ減サレタリト雖モ其管理向キノ行
為ニ至テハ一國ノ農業上ニ關涉スル一切ノ事ヲ總轄セリ
初ニ地ノ所有ニ付テ大ニ民法ト國法トノ混亂アリレカドモ漸

之改を獨り國法ノミヲ以テ之ヲ管理スルトナレリ

政府ノ費用ハ主トシテ宮内ノ扶助ヲ成スル間ハ其費用ヲ充タスニハ
宮内ノ私物ヨリスル収入ヲ以テスルト至當ナリト虽氏國家ノ事業
増加シタルニ依テ人民ヨリ租稅ヲ出スルヲ始メタリ是ヲ以テ公共ノ費用
ハ之ヲ充タスニ公共ノ收入(即チ租稅)ヲ以テシタルヲ見ルニ至レリ

根原國王ノ所有タリシ所全地ハ漸々ニ公共ノ所有トナリタリシガ終ニ
近代ノ憲法ヲ以テ之ヲ政府ノ所有物ト定メ譲与賣買スベカラザル
性質ノモノタルベキヲ布告シタリ然リト虽氏農業ヲ本トスル國々

ニ於テ世襲立君國ノ次第ニ表明セシハ究竟領地ヲ所有スル致ス
所ナリ○余ガ輩ノ見ニ依レバ領地ノ所有多クレバ多キ程國君ノ權
盛大ニシテ限り無リシナリ(何者君主ノ領地多クレバ隨テ收入多キガ
故ニ君主ノ費用ヲ臣下ニ依頼スルト少シクナリ)漸々領地ノ減少スル

ニ隨テ政府ハ其管轄ノ部分ヲ擴張下ル最初政府ハ公同ノ管理ノミ

一部分ノ支配ヲナシタリト虽氏認ニ其全局ヲ占ムルニスルナリ○何

處ニテモ君主ガ許多ノ土地ヲ所有スル國ニ於テハ政府ニ於ケル人民ノ
關係ハ都テ領地無キ國々ニ於ケルヨリモ更ニ少ナキハ固有ノ性質
ナリ而シテ此ノ固有ノ性質ハ往古ヨリ近代ニ至ル迄瞭然ニシテ不
輩其蹤跡ヲ追フコトヲ得ベシ

革命ノ時ニ於ケル領地ニ就テノ歴史ヲ見觀スルモ亦肝要ナリ○勝利
ヲ得タルノ黨ハ不正ニ共同ノ領地ヲ増加シ又或ハ其貪慾ヲ充タシテ以テ
無教ノ人民ヲシレリ黨ニ附ケンガ為左之ヲ擲棄スルトモアリ既ニ羅馬

ノ皇帝「コンスタンチン」ガ耶蘇宗ニ改宗セシ片ニハ直ニ前ニ信向セシ
宗旨ノ所有地ヲ官沒シテ之ヲ耶蘇宗ノ寺院ニ給与シタリ英國

「エドワード」第四世ハ其敵ノ所有地ヲ奪掠シテ之ヲ彼レノ黨類ニ
与ヘタリ此ノ外ニ在テモ嚴重ナル國君ノ威カラ得タルトノ瞭然タル君主
ハニ合テ増殖スルトニ大ニ注目シタルヲ見ル佛蘭西ニ於テハ「ロワプ

其嗣君ハ則チ^其人ナリ又羅馬教僧^ハ財産ヲ奪掠
セシ英國^ハ「ヘンリー」第八世ノ如ク瑞典ニ於ケル「チャールズ」第十一世^ハ伊^タリ
ニ於ケル「フア」デナンド^ハ及「イサベラ」亦然リ之レニ因テ國君ノ領地ヲ増殖
シテ以テ其威カラ堅牢ナラシメント企テタル^ハ如何ヲ見レバ又共和政
事黨ノ其威カラ得ル^ハ為テノ第一着ハ王家ノ威カラ破滅スル^ハ為ニ領地ヲ
賣却シテ以テ之ヲ除去スル^ハ在ル^ハ者ニ足レリ○英國ノ共和政事黨
ハ王國ノ再興セサルヲ欲シテ其王領ヲ悉ク賣却シタリ^ハカ
○佛蘭西ノ共和政事^黨ハ其發心^ハ否ヤ王領崇教
ノ為ニ設ケタル土地并^ニ國事ニ關係セサル所^ノ移住貴族ノ領地ニ
至ル迄之ヲ奪掠シテ^テ而シテ最近代ニ至ル迄始終右同^ノ原
則ヲ取用セタリ
抑モ此領地ナルモノハ國ノ會計中ニ在^ル尤古キ制度ナリ○何レニテ
モ政府ノ經濟ノ重要ニ天造物ヲ基本トスル^ハ國ニテハ政府ハ最大ナル

土地ノ所有者タル^ハ最緊要ナリ而シテ前ニハ君主征服ノ方畧ヲ
以テ之ヲ滿タシタルヲ以テ世襲ノ規則^ハ行ハレザリシナリ○何レノ
國ニ於テモ自然^ノ經濟^ハ（大古ハ勿論今日ト虽氏未聞^ル國ニ於テハ自然
ノ經濟アリ之レニ依テ全体ノ交通ハ大造ノ形テニテ品物ヲ交易
所^ノモノナリ）ヲ行フ處ニテハ^ハ帝^ヲ以テ租稅ヲ拂フ^ハ行ハ
難キモノナリ^ハ是^ヲ以テ物品（產物）ヲ以テ租稅ヲ拂フ^ハモ亦地租ヲ
拂フ^ハ一制度タルヲ見ル^ハ足レリ○斯ルガ故ニ領地ヨリスル收入ハ
政府收入ノ一根本トナル^ハ至レリ而シテ國ノ長タル地頭ト^テ土地ノ
領首^ト地頭^ト區別無カリシガ如ク見^レタリ而シテ此時ニ在^ルハ租
稅帖ニ姓名ヲ記載セラレザリシハ則テ自由ノ人タル証據ト思考セラ
レタリ
大古ノ歴史
一、^ハ余昔^ハ太古ニ遊^ビテ之ヲ觀^ルレ^ハ共和政事^ノ時^ニ於^テ政府ノ權力

限リ無クシカドモ之レニ拘ハラズ國家定法收入ハ領地鑛山及税
銀ノ收メテ以テ成立セリ然ルニ外國人并奴隸ヨリハ直税ヲ強取シ
自由ノ人民ヨリハ租税ヲ出スヲ無カリシナリ○大ニ收税法ニ長シタル
所ノ羅馬人ハ又廣大ナル公共ノ領地所謂「アール、バブリカス」即チ公ケノ
土地ト名ケタルモノナリ但シ私有地ハ之ヲ「アール、ブリグアタス」ト名ケラレ
タリラ所有シタリ○征服シタル國ニ於ケル山林及牧地ハ常ニ之ヲ國家
ノ部ニ編入シ以テ夫ヨリ廣大ナル牧草料ヲ徵收シタリ○其政府領地
ノ残カハ之ヲ賃地トナシタリト雖ハ漸々ニ貴族ノ手ニ落チタリ然リト
虽ハ皇帝國トナルニ至テ公共ノ土地ハ次第ニ一ノ特別條例モ無ク皇
帝ノ御領トナルニ至リタリ

領地ノ制法ハ皇帝「シャルマン」在位ノ時ニ於テ完整シ其廣大ナル
家領ハ土地并天然ノ物産ヲ以テ給料ヲ与ヘタル所ノ官吏ニ依テ
支配セラレタリ○此ノ時ニ在テハ收入ハ之ヲ貨幣ニ交換シテ以テ
之ヲ皇帝ニ送付シタルモアリ又或ハ皇帝ノ土地カラ土地ニ旅行シ
テ以テ直クニ其土地ニ於テ皇帝ノ之ヲ消費シタルトモアリタリ

英吉蘭土

余カ輩ハ爰ニ酋長ニ種タリシ安各羅撒遜王等ノ廣大ナル領地ニ有
有シタル第十一世ノ始メ而シテ「マン」種族ガ勝利ヲ得タル時ニ
在テ大ナル領地所有ニ懸着シタル最貪慾ナル支配ノ制度ヲ創制
シ勝者ハ親カラ著大ナル王領ヲ留メ置キ其殘餘ヲ以テ之ヲ其
殘餘ヲ以テ之ヲ其幕下等ニ配分シタリ然リト雖ハ其全國ニ付テ
云フ片ハ之ヲ勝者ノ領地ト考ヘラレタリ而シテ國王ハ國中最高ノ地
頭タリト英國法律ノ原則ハ此ヨリ始マレルナリ○土地ノ所有
ハ食邑ノ大推トハ此王國ノ基礎ニシテ裁判并立法ノ權モ皆之レニ
由来セリ○然リト雖ハ余カ輩ノ見ニ依レバ諾耳曼ノ節儉法ハ
長ク行ハレザリシナリ既ニ「ジョン」王第十二世ノ末ニ收入ノ増加ヲ

要請

領地、收入ニテハ其費用ニ引足ララル

此時ニ當テ議院ノ權力興隆

ノ端ヲ開キタルヲ以テ國王等其領地ヲ賣却シ以テ此議院ノ關係ヲ脱シ
 議院ミタリサレドモ領地ハ常ニ王權ニ屬スルモノト思考セラレ（即チ
 王位ニ在ル人ハ誰ニテモ領地ノ所有者タリシ）決シテ家産トハ思考
 セラレザリシナリ是ヲ以テ王權ヲ奪ハレタル朝ノ所有トナリ存
 在スルモノトハ非ハナリ○次第二領地ハ公共領地ノ性質ハラ古有
 シタルヲ以テ議院ハ「ウサリヤム」王第三世（第十七世紀ノ中葉）ノ
 領地ヲ賣却シタルハ法則ニ悖戻スト公布シタリ而シテ憲法（ア
 ーシ）第一世憲法第章）ヲ以テ之レガ規則ヲ設ケラレタリト
 虽此憲法ニテハ高才領地ノ賣却ヲ防クニ至ラザリシナリ而
 シテ千八百六十ニ於テ「デヨーデ」王第三世ガ世襲ノ御領ヲ以テ取極メ
 タル「シヴキル」ストニ交換シタルハハハ街領ハ甚タ領細テアリシナリ
 而シテ方今ニ至テハ此御領ハ純粹ナル政府ノ所有物トナリタリ

佛蘭西

佛蘭西ニ於テ國王ハ單統ナル土地ノ所有者タリトノ封建説ハ近代
 路易第十四世（第十八世紀ノ中頃）ノ時ニ至ル迄モ常ニ著シク國王ノ
 固守スル所タリシト虽モ是ハ決シテ法律ノ部分ニハ非ハナリ○然
 ト虽此讓与賣買スベカラザルトノ原則ハ都テ貴族ノ企謀ニ抵抗
 シテ嚴シク國王ノ固守スル所ナリシ○此格言ハ都テノ次王皆之ヲ
 支持シタリ而シテ「チャール」ス、ジト、フヤール」曰ク「曾テ王領ノ一部分ヲ組
 織シタル所ノモハ悉皆王領ニ屬ス」按スルニ當時貴族ガ一時王領ヲ借り受テ
 時ヲ経テ自然私有者トナリタルヲ斯クモモラン
 此外ニ又格言「アヨ」國王ハ私有地ヲ所有スベキモノニアラス其領地
 ヲ所有スルハ單ニ其王權ノ徳ニ因ルモノナリト○千七百九十年ニ於テ此
 國カ親カラ王權ヲ得タル時共和政体ヲ創建ニ於テ併セテ領地ノ權
 セシ時ヲ云フ佛國王家
 系録ニ稱 家ニ於テ之ヲ管理スル善
 入得タリ是ノ領地ハ「ボアボン」
 良ナリシカドモ尚才許多ヲ保存セシ所ノモナリ○千七百九十年

十月二十日ノ布告ヲ以テ領地ハ讓与賣買スルヲ得ベキモノト定
メタリ而シテ僅カノ間ニ減却セラレタリ○方今領地ハ尚ホ國家
ノ領地(王領ニテハナク)ニシテ讓与賣買スルヲ得ベキモノタリ

